

樹木診断報告書

委託件名: 街路樹精密診断委託(上北沢3-18先)

樹種: サクラ類

所在地: 世田谷区上北沢3-18先

株式会社 川端造園
代表取締役 川端 徳義



1. 概 要

- 1) 件 名 街路樹精密診断委託(上北沢3-18先)
- 2) 履行場所 世田谷区上北沢3-18先
- 3) 実施数量 精密診断 サクラルイ 23本
- 4) 調査日 平成 28年 9月 30日
- 5) 受託者 東京都世田谷区桜丘5-8-7
株式会社 川端造園

報告書作成

樹木医 川瀬 裕一郎 (登録番号 第1767号)

樹木医 須藤 哲 (登録番号 第 671号)

樹木医 梅澤 将司 (登録番号 第2339号)

樹木医証

樹木医証



氏名 川瀬 裕一郎
生年月日 1966年3月31日
登録番号 第1767号

上記の者は財団法人日本緑化センター
が行う樹木医資格審査・証明事業によ
り登録された樹木医であることを証明
する。
平成21年12月25日

財団法人 日本緑化センター
会長 上島 重二



樹木医証



氏名 須藤 哲
生年月日 1956年 5月26日
認定登録番号 第671号

上記の者は農林水産大臣認定の樹木医
資格審査・証明事業により登録された
樹木医であることを証明する。
平成11年12月8日

財団法人 日本緑化センター
会長 伊藤 助成



樹木医証



氏名 梅澤 将司
生年月日 1973年3月22日
登録番号 第 2339 号

上記の者は(一財)日本緑化センター
が行う樹木医資格審査・証明事業によ
り登録された樹木医であることを証明
する。
2014年12月1日

一般財団法人 日本緑化センター
会長 篠田 和久



2. 現場調査

1) 対象木の確認

監督員の指示に従って現地調査において、樹木の確認を行った。

2) 精密診断

精密診断は、多点式応力波速度測定器ファコップ アーボソニック3Dを、使用して行った。

腐朽度判定基準

判 定		空洞腐朽率
A	健全か健全に近い	10%未満
B1	注意すべき被害	10%以上30%未満
B2	著しい被害	30%以上50%未満
C	不健全	50%以上

上北-5

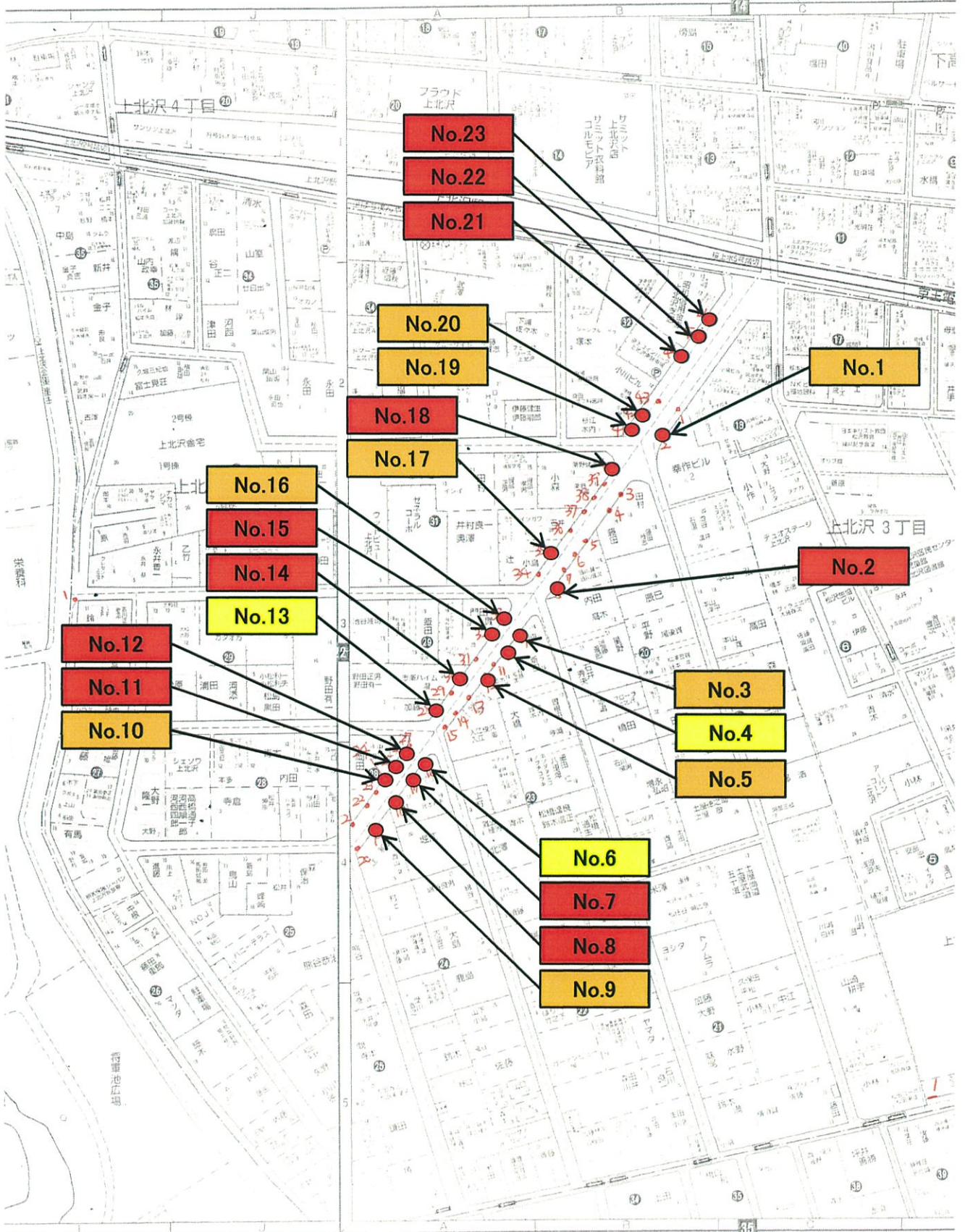
位置図



No.1

H28.9月精密診断No.

23 世田谷区



各樹精密診断委託(上北沢3-18先) 烏山公園管理事務所

株式会社 川端造園

カルテNo.	樹種	H(m)	C(cm)	W(m)	外観の所見	精密診断	精密診断高さ(m)	H27精密診断腐朽率(%)	今回診断腐朽率(%)	精密診断判定	摘要
1	サクラ類	9.0	195	12.0	幹:コフキタケ(H0.4) 幹、根元:閉塞 120cm	■	0.4	35.0%	47.0	B2	根元の辺材から心材にかけて閾値50%に迫る大きな異常が認められた。前回診断時より腐朽空洞率は大きくなっており、数値的には倒木危険度がやや高い樹木である。風圧軽減剪定を行った上で、短期周期の継続観察が望ましい。
2	サクラ類	7.0	212	7.5	幹:樹皮欠損、腐朽 40×30×20、70×30 露出根:樹皮欠損、腐朽 30×20、20×5 打音異常(大)(H0.5~1.2m)	■	0.7		58.0	C	幹の芯材から辺材部に貫通し閾値50%を超える極めて大きな異常が認められた。数値的には倒木または幹折損の危険度が高く、植替え検討を要す樹木である。存置する期間が長い場合は、風圧軽減剪定が必要である。
3	サクラ類	10.0	175	6.0	幹:樹皮欠損、腐朽 80×30 打音異常(大)(H0~1.0m)	■	0.5		37.0	B2	幹の心材から辺材部にかけて閾値には及ばないが大きな異常が認められた。幹に大きな樹皮欠損・腐朽と打音異常があり、短期周期の継続観察を要す樹木である。
4	サクラ類	12.0	150	8.0	根元:マンネンタケ	■	0.0		21.0	B1	根元の辺材部にやや大きな異常が認められた。数値的には現時点で倒木の可能性は低い、根元にマンネンタケの着生があり、継続観察は必要である。
5	サクラ類	12.0	172	12.0	根元:樹皮欠損、腐朽 30×40×40/80(芯) 打音異常(大)(H0~0.5m)	■	0.2		49.0	B2	根元の芯材から辺材部にかけて閾値50%に迫る極めて大きな異常が認められた。数値的には倒木危険度が高い樹木で、植替え検討も選択肢の一つである。存置する場合は、風圧軽減剪定を行った上で短期周期の継続観察が必要である。
6	サクラ類	12.0	173	11.0	根元:マンネンタケ	■	0.1		23.0	B1	根元の辺材部にやや大きな異常が認められた。数値的には現時点で倒木の可能性は低い、根元にマンネンタケの着生があり、継続観察は必要である。
7	サクラ類	11.5	200	11.0	幹:コフキタケ(H0.3m) 打音異常(大)(H0~0.5m)	■	0.3	41.0%	58.0	C	根元の芯材から辺材部に貫通し閾値50%を超える極めて大きな異常が認められた。数値的には倒木危険度が高く、植替え検討を要す樹木である。存置する期間が長い場合は、風圧軽減剪定が必要である。
8	サクラ類	13.0	220	12.0	幹、根元:ベッコウタケ 鋼棒貫入異常 20cm	■	0.0	50.0%	56.0	C	根元の芯材から辺材部に貫通し閾値50%を超える極めて大きな異常が認められた。前回診断時より腐朽空洞率は大きくなっており、倒木危険度が高く植替え検討を要す樹木である。存置する期間が長い場合は、風圧軽減剪定が必要である。
9	サクラ類	13.0	182	8.0	根元:マンネンタケ 根元:樹皮欠損、腐朽 30×40×40/80(芯)	■	0.0	24.0%	31.0	B2	根元の心材から辺材部にかけて、閾値には及ばないが大きな異常が認められた。前回診断時より腐朽空洞率は大きくなっており、根元にマンネンタケの着生があるため、短期周期の継続観察を要す樹木である。
10	サクラ類	10.5	203	7.5	大枝付根:樹皮欠損、腐朽 60×30×20/30(芯) 打音異常(大)(H0~1.5m)	■	1.0		36.0	B2	幹の辺材から心材にかけて閾値には及ばないが大きな異常が認められた。根元から幹にかけて打音異常、大枝付根に芯に達する腐朽があるため、風圧軽減剪定を行った植えて、短期周期の継続観察が必要である。

カルテNo.	樹種	H(m)	C(cm)	W(m)	外観的所見	精密診断	精密診断高さ(m)	H27精密診断腐朽率(%)	腐朽率(%)	精密診断判定	摘要
11	サクラ類	9.5	233	6.0	打音異常(大)(H0~1.2m)	■	0.6	34.0%	52	C	幹の辺材から心材にかけて閾値50%を超える大きな異常が認められた。前回診断時より数値は著しく大きくなっており、倒木または幹折損の危険度が高い樹木である。数値的には植替え検討を要す樹木であるが、存知する期間が長い場合は風圧軽減剪定が必要である。
12	サクラ類	9.0	212	6.5	幹~根元: 樹皮欠損、腐朽 120×40×20/60 打音異常(大)(H0~1.2m)	■	0.6		53	C	幹の芯材から辺材部にかけて、閾値50%を超える極めて大きな異常が認められた。倒木または幹折損の危険度が高く植替え検討を要す樹木である。存置する期間が長い場合は、風圧軽減剪定を行う必要がある。
13	サクラ類	8.5	194	5.0	大枝: コフキタケ(H1.8m) 打音異常(大)(H0~0.3m)	■	0.0	6.0%	11	B1	根元の一部辺材に小さな異常が認められた。前回診断時より腐朽空洞率は若干大きくなっている。数値的には倒木の可能性は低いが、根元から幹にかけて打音異常、大枝にコフキタケの着生があり、継続観察を要す樹木である。
14	サクラ類	11.5	203	9.0	根元: ベッコウタケ 銅棒貫入異常 30cm、40/80cm(芯) 打音異常(大)(H0~1.0m) (※外観診断的には、精密診断なしで植替え検討)	■	0.0	58.0%	66	C	根元の芯材から辺材部にかけて閾値50%を超える極めて大きな異常が認められた。前回診断時より数値は著しく大きくなっており、倒木危険度が高い樹木である。数値的には植替え検討を要す樹木であるが、存知する期間が長い場合は風圧軽減剪定が必要である。
15	サクラ類	10.0	192	8.5	露出根: 樹皮欠損、腐朽 40×5 打音異常(小)(H0~0.3m)	■	0.0		54	C	根元の辺材から心材にかけて閾値50%を超える極めて大きな異常が認められた。数値的には倒木危険度が高く、植替え検討を要す樹木である。存置する期間が長い場合は、風圧軽減剪定を行う必要がある。
16	サクラ類	11.0	240	10.0	樹勢、樹形: 下降気味 大枝: カワラタケ 根元: ベッコウタケ	■	0.0		30	B2	根元の心材から一部辺材にかけて閾値には及ばないが大きな異常が認められた。樹勢不良で根元にベッコウタケ、大枝にカワラタケの着生があり、短期周期の継続観察を要す樹木である。
17	サクラ類	12.0	197	9.0	打音異常(大)(H0~0.5m)	■	0.2		35	B2	根元近くの幹辺材部に閾値には満たないが大きな異常が認められた。根元から幹にかけて打音異常があり、短期周期の継続観察を要す樹木である。
18	サクラ類	8.0	208	6.5	根元: 開口空洞、腐朽 30×15×40/80(芯) 大枝付根: コフキタケ(H1.7m) 根元: コフキタケ(H0.2m)	■	0.1	63.0%	65	C	幹の芯材から辺材部に広がり、閾値50%を超える極めて大きな異常が認められた。腐朽空洞率は前回診断時とほぼ同じであるが、数値的には倒木または幹折損の危険度が高く、植替え検討を要す樹木である。存置する期間が長い場合は、風圧軽減剪定を行う必要がある。
19	サクラ類	10.0	220	8.0	大枝付根から根元: 150×50×30/58(芯) 樹形傾斜(大)	■	0.1	26.0%	35	B2	幹辺材部に閾値50%には満たないが大きな異常が認められた。前回診断時より被害は進行しているが、数値的には幹折損の危険度は低い。根元から幹にかけて芯に達する腐朽があり、短期周期の継続観察を要す樹木である。
20	サクラ類	11.0	203	12.5	大枝付根: 樹皮欠損、腐朽 80×30×20/37(芯) 打音異常(大)(H0~1.0m)	■	0.5		49	B2	幹の辺材から心材にかけて、閾値50%に迫る大きな異常が認められた。数値的には倒木または幹折損の危険度が高く、植替え検討も選択肢の一つである。存知する場合は、大枝付根に芯に達する腐朽があるため、風圧軽減剪定及を行った上で短期周期の継続観察が必要である。

